

## 令和3年度第1回加西市子ども・子育て会議

日時 : 令和3年10月18日(月)  
10時00分～12時32分  
場所 : 加西市役所 5階 大会議室

### 1. 開会

### 2. 委員の紹介

### 3. 教育長挨拶

### 4. 協議事項

○会長 本日は第1回目ということで本日で結論得るということはなかなか難しいと思いますので、基本的には今日はいろんな課題をご説明いただいて、そしてフリーなご意見をいただくということをやちょっと進行のベースにしたいと思っておりますので、よろしくどうぞお願いいたします。会議次第でございますように、今日は4点ほどあります。事前に配付してあるということなので、目を通していただけてるかと思いますが、改めて1件ごとに事務局より説明を受けながら少しずつ議論の調子を上げていきたいと、こういうふうに思っております。よろしくどうぞお願いいたします。

まずは、第1点令和4年度認定こども園の申込みについて、事務局より説明をお願いいたします。どなたからでしょうか。よろしくどうぞ。

○事務局 それでは、1ページをお開きください。まず、一番令和4年度認定こども園の申込みについてということで、利用定員を決めていきたいと考えております。上から言いますと加西市には11か所の認定こども園と1か所の小規模保育所がありますということで、11か所については既に北条東こども園を民営化した前提で書かせていただいております。北条東すみれこども園ということで、他の表のところに記載させてもらっております。「認定こども園は幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持ち、教育と保育を一体的に行う施設です。小規模保育所は、就労などのために家庭で保育もできない保護者さんに代わって保育する施設です」。ということで昨年度、小規模保育所について議論いただいたと聞いておりますけれども、この10月1日に愛の光ナーサリーが1園開園しております。昨年2園、公募で決めたということはこの会議ではお知らせしてなかって後日お知らせしたと聞いておるんですけども、もう1園4月1日に開園予定となっております。

それでは、認定区分が1号、2号、3号とありますけれども、記載のとおりでございます。申込みについては、今年度は10月11日月曜日から10月29日金曜日の期間となっております。現在申込み期間中でございます。施設一覧ですけれども、下記記載のとおり先ほど言いましたように北条東こども園が公立が私立の北条東すみれこども園ということで4月予定となっております。それから、定員と児童数ということで利用定員でございますけれども、令和4年度については令和3年度からの変更点を増減させております。令和4年度については先ほどを申しましたすみれこども園さんの申請の状況を反映しております、教育については25名の減でございます。

また、保育については28名の増ということで、最近の教育利用から保育利用が増えているという傾向を反映したものとなっております。それから、ゼロから2歳の保育ですけれども、これについては2園令和3年度よりは、愛の光ナーサリーさんともう1園4月1日に開園予定のところの増加分を反映しております、プラス35名としまして452名の利用定員としております。在園数に

については、令和3年度については9月末の状況で記載しております。

以上で説明終わらせていただきます。

- 会長 ありがとうございます。加西市の場合、待機児童ということもあるかもしれませんが、加西市全域的にどこでも子供たちが教育、保育を受ける、そういうサービス環境システムっていうのを非常に配慮していただけてるという文脈の中での園の追加とか、定員数がというふうに印象的には受け止めているわけですが、今の説明に関しまして皆さんのほうからご意見とか質問ございますでしょうか。こんなもんか、これでいいんだとか、いやいやもうちょっとどうだとかっているあるかもしれませんが、どうでしょうか。はい、分かりましたという説明として受け止めてよろしいですかね。じゃ、そのように扱いさせていただきます。

それでは、続きまして協議事項の2点目で小規模保育所設置・運営法人の追加募集についての報告に入ります。これについても事務局のほうから説明をいただきたいと思えます。

- 事務局 それでは、2ページをご覧ください。2加西市小規模保育所設置・運営法人の募集についてということで、昨年度は3園の募集ということでしたんですけども、結果2園ということ決定しております。もう1園今年度募集したいということですけども、想定としては北条地区にお子さんをお持ちのご家族が多いということと、南部へ働きに行かれる方が多いということで、北条地区まで通勤が逆になるので、南部ほうに設置してはどうかというふうには考えておまして、2園ということ募集をしていきたいと考えております。

それでは、加西市では今後の待機児童の解消を図るため令和4年度中、または5年4月1日の開設を目指して本市から整備費補助を受けて小規模保育事業所設置と整備運営する事業者を募集します。種別にしたら小規模保育事業A型。これについては20名以上が保育所の認可でございますので、小規模ということで19名以下の定員というふうになります。事前登録をこの会議で12月から募集をしたいということで12月28日まで1か月間の事前登録受付をするということとしております。定員は先ほど言いましたように19人以内の2歳以下3歳未満児でございます。募集地域は市内全域でございます。募集施設は1施設程度ですので、1園になるかもしれませんが、状況によっては3園になることはないと思えますけど、2園程度っていうことでございます。開設時期は令和5年4月1日、もしくは4年度中ということでございます。

応募資格については、認可保育所、認定こども園、または小規模保育事業所の運営実績が1年以上ある法人と。代替保育の提供等、連携教育を行っていく施設を確保してくださいということで、3歳以降の連携施設を設けることが基本となっております。詳細は募集要項ということで、詳細についてはまた後日選考委員会を開催しまして、募集要項等を決めていきたいと考えております。スケジュールについては事前受付の申込書を1月21日までに提出いただくという予定で進めていきます。審査選定については2月初旬、事業者決定については2月中旬ごろということで、ちょっとまだ今、日程を決めておりませんが、これについても審査会を開催して決めていきたいと考えております。申込先は加西市こども未来課でございます。

以上でございます。

- 会長 これについても先ほどありました。さらに、加西市全域において充実した保育サービス環境の充実という文脈の中で受け止めるべき課題だと思っております。事務的な段取りについてはちょっとご意見があれば、またもうちょっと延ばしたらどうかとかいろいろあるかもしれませんが、ちょっと裏側の質問があるかもしれませんが、既に何となく水面下で応募してきそうなどころがあるとか何か、そういうところの情報把握になるんですけど、それはなくて更地で全く。

- 事務局 状況ですか。状況は国がそのやっぱりこども庁ですか——を作るなり、保育所の充実な

りを政治課題とされていますので、そのような動きをやっぱり事業者さんは捉えて問い合わせが多少入っている状況でございます。

○会長 私、勤務は岐阜県でありまして、ちょっとローカルな話で恐縮ですが、Mさんが岐阜県なんですよね。彼女はいろんな観点からちょっと本気ですので、そういったところで、恐らく政権がどうなるか分かりませんが、政権がどうなってもやっぱりこども庁と子供っていうことは、未来志向として、未来というのは明るい未来ではないかもしれませんが。何とか今存続させないといけないという、こういった観点からやっぱり今提案されている課題というのは非常に重要だというふうに思っております。もうちょっとうがった見方しますと、今韓なんかが大都市ばかり集中して地方がなくなってくるんじゃないかというところで、地方の大学がなくなる、学校もなくなる。全て企業もなくなってって都市一点だけ残るといった状況があるらしいんですね。この前、韓国でもピョンチャン、あそこもう今限界集落になってきて大変な地域なんですね。もう地方が消えてなくなると。

我が国はちょっとそういう政策ではなくって、どこにいても人々がきちっと暮らして、どこでも子育てをするというふうなところは、ある意味では国の共通理解だと思っておりますので、そういうの流れの中でこの課題を受けとめて、ぜひ加西市で粛々と整えていただくということは、会長としては期待したいと思います。教育長もよろしくどうぞお願いしますね。

○教育長 どうも。

○会長 ちょっとこの件に関しまして何か、どうぞ。

○A委員 私は、子ども・子育て会議の委員として、この供給計画は私はもう一度見直したほうがいいんじゃないかというふうに考えております。少しの供給計画っていうかニーズ予測が甘いんじゃないか。

まず、2021年の2月18日前回にゼロ、1、2歳の乳児の需要が多いんだけど、供給は不足していると。それはおよそ60名と見込んでいるというような話がありました、事務局側からですね。それで3園をゼロ、1、2歳の小規模を増設したいということでしたが、今日お話を聞きましたら、いつの間にかこれが4園に増えているということでありまして、それから既に2園というのは、開設することが決まって1園は今年10月にオープンしてるわけですけど、私の実感としてはもう2園でも十分じゃないかなと。3園は必要ないんじゃないかなと。60名の不足っていうことが足りないから、足りないから当座足りないんで、それじゃ施設を増やそうという何かちょっと安易な対応のように思うんです。それは一回造ってしまうとなかなかそれがなくなるということではできません。

加西市の出生数というのは、最初のお話にあったように去年は190、今年はもしかしたら175名ということでどんどん下がっていくと、なかなか出生数がこれから回復するという見通しは今のところ立っていない訳ですよ。それにも関わらず、当座足りないからといって施設を安易に増やしてしまうと、近い将来供給過剰になって必要のない子供の取合いといいますかね、それから施設の経営不安、そういったものも巻き起こすと思うんです。この乳児保育の施設の不足というのは、むしろ場所が足りないじゃなくて、人が足りないんです。施設はあります。既に11園の園と、それから小規模1園があるわけですけど、それぞれそれなりの広さとか保育施設、部屋を持っているわけです。何が足りないかというと、それを乳児を預かる、乳児には手厚く保育士が必要ですから保育士が足りない。保育士が不足しているから、既存の今ある園が対応できない。この問題は事実です。この問題を解決するのが第一であって、ここを対処しないでどんどん増やしていく。おかしいと思いませんか。

保育士不足が全然解消されませんよ。場所が増えるだけで。場所は足りてる。場所は足りてるんだから、各園で保育士の今不足はあって、そして明石とか加古川とか都市部の保育士の争奪戦が行われていることは既にご存じだと思います。それに関連して当然加西市は近いですから、加西の保育士になろうという人たちが、そっち方面明石や加古川方面、姫路方面というように流れていくと。待遇がいいですからね。それに対してのやっぱり対応もしないといけないし、加西市で何とか保育士を確保できるそういった方策をむしろこの子ども・子育て会議で同じお金を使うなら、そういう方向にシフトしていったらどうかと思うんです。ただ、とりあえず造ってみれば当面は施設が増えたということになって、問題が解消したように見えますが、次に新しい問題が起こってきます。これは供給過剰による競争を激化といいますかね、結局閉める園も何園か出てくる。これでは安定した保育といますか、そんなものが供給できませんし、来年はどうなるんだと経営ばかり気にしていたらいい保育ができないですね。それに関して私は、この機能、今現在進めておられる計画というのは少し無理があるんじゃないかなと思います。

前回の質問のときにもそれほど十分に審議しなかったと思うんですよ、この会議では。60名、足りないからじゃ3つ造るって、それでいいんじゃないですかという話になるとは思いますけど、私はこの先はやっぱりいろんな角度で特に190名、175名しか生まれないという数字が出たからには、いろんな角度でもう1回考え直していく必要があるのではないかなと思います。ですから、この案には私は反対です。見直しをお願いしたいと思います。

○会長 今、委員の前半では見込みの甘さの問題が1つあると思いますよね。その辺の問題で、後の問題は保育士の確保ということで、含めた議論になるかどうかはちょっと別として、これもちょっと岐阜県のことでもいいますと、各市町が奨学金を出して私どもの市町に勤める場合はということで、奨学金出してそこで保育士を確保していくというようなことなんですが、加西市はそういう奨学金対応というのはないですね。

○事務局 やってないです。定着一時金いうのを今年度から始めてますけども。

○会長 岐阜のほうでは、ということでそういうことも地域自治体はやって本当に保育環境をきちっとしようと。人がいないんじゃないかという環境を含めて、保育サービスを考えているというふうに、そういうこともありますので、そういったところとしては先ほどの意見は関連することかなと思って受け止めております。ご意見ほかにどうでしょうか。

○H委員 今言われたこと、僕もずっと思ってるんですけども、福祉業界は高齢者を含めて建物は十分だと思います。ところが今言われたように、職員さんがどうしてもそこにとどまってくれない。そういうことと民生委員が市内で赤ちゃん訪問っていうのを3か月、4か月の間にさせてもらってます。そういう中で独り親、母子家庭の訪問もあるんですけども、そのときに1か月の赤ちゃんどうされるんですか1人でという話の中で、「いや、横の市行ったら、たまたま小さな保育所があって、そこへ預けてちょっと時間オーバーしてもいいですよ」というような状況があって、そこへ預けて正社員で働いています。」っていうようなこともありました。だから、他所からそういうふうなところで加西市へ子供連れで働きに来るといふ、そんな方もおられないかなと思うし、その辺のことは多分表には出てないと思います。

だから、そういう数名の赤ちゃんもいるっていうのは事実じゃないかなっていうふうに思います。南部のほうにもう1か所って言われてましたけども、南部のほうってちょっと分からないですけども、確かにA委員が言われたように前の段階では2か所ぐらいでっていう話が出てたと思いますので、僕もちょっと建物を建てたら建物をつぶすだけでも今は費用がかかるし、あっちこっちの建物が加西市に建ってるんですけども、そんなふうな思いもあって赤ちゃん訪問も年々減るなってい

うのが民生委員の人数もずっと九会地区で何名、北条地区で何名というのも出てきますしね。どうなるかなっていうのはあります。

○会長 貴重な意見ありがとうございます。先ほどちょっと手が挙がった、事務局のほうからお願いします。

○事務局 失礼いたします。先ほどのA委員からのご質問の件なんですけれども、一応今の加西市の待機児童、それから保留の児童の状況についてであります。毎年新聞報道されますのは4月1日時点での待機児童数が、新聞では出ております。平成31年4月では待機児童数2名、保留15名、合計17名でありました。令和2年4月には待機が0名、それから保留が23名ということで、全体で23名ということでありました。今年、令和3年4月では待機が2名、保留が15名という合計17名の方が行きたいけど行けないんやということでありました。

今度、次に今年度につきまして毎月申込み等ありまして、そこで審査をしてどここの園に行けますよというようなことをしてるんですけれども、今年度の場合は愛の光ナーサリーが10月1日に開所いたしました。今現在4月、5月、6月とずっとあるんですけれども、愛の光ナーサリーが開所した関係で8月1日時点では待機11名、保留23名であったものが、ナーサリーの開園によりまして9月1日では待機5名、保留21名という26名に減ったと。毎月その都度申込みがありますので、今現在10月1日時点での待機児童、保留児童の実数は待機が5名、保留が29名であります。

これは全てゼロから2歳までの児童、子供さんであります。3歳から5歳までではありません。全てがゼロから2歳までで希望してるんだけど、近くに行きたい園がちょっと遠いから行けない。実際、待機というのは5名でそれ以外の保留が29名という状況であります。ということで、今回と来年の4月1日に、もう1園小規模園が開園の予定であります。それは開園したとしてもこの流れを見ますと。もうあと1園もしくは2園。2園というのが、それこそ今回も昨年というか、前回もこの2園を開園すれば待機がなくなるやろうと思ったところが、どんどんまた申込みが増えてきている状況にあるということでありました。

女性の働き方というか、変わっていったのかなということと、あとコロナの関係とかいろいろな条件がありますけれども、そういう状況でありまして事務局といたしましては、来年度も1園もしくは2園を整備することによって、この待機児童、保留児童ということが解決、解消できるのではないかなという、そういう数値の見込でもってしています。

A委員がおっしゃるように、要は今から少子化になってくるとなかなかそういう子供さんの園の取合いとか、そういうことで経営状なんか苦しくなる、そういうことも当然あると思いますが、今のニーズから言えばゼロから2歳までの乳児の関係も事業がまだもう少し見込めるのではないかとということで今回この計画をしておるということでございます。

○会長 分かりました。どうぞ。

○E委員 すみません、初めてであまり要領もよく分かってないんですけども、他都市と比べると加西市ってすごいお金持ちなんだという印象を今受けています。何か逆ような感じがして、普通は市民がもう造ってくださって行って、行政はそれはもう無理ですってところが多いのに、何かちょっと反転してるなという感じがあたりするんですが、こちらの将来5年、10年の量の見込調査と待機児童の数、そこらの関連がまだ伺ってないんですけど、量の見込調査と、それから保護者の意向調査なんかはされてますか。

○事務局 いや、保護者の意向調査はしてませんが、問い合わせが多々、クレームというか、例えば里帰り出産を受付けてくれない、1歳になるから働きたいけど、受皿がないと。先ほどおつ

っしまったように基本的に保育教員が足りないという問題はありますけども、3歳から預けるんじゃないかと、核家族化なのか政府がいう女性推進なのか、もうとにかく早く預けて働きたいという若いご家庭が多いので、積極的に需要を受けていけるようにしたい。全国的には小規模というのは、もう減少傾向にあるんですけども、200人程度と出生数見込と市外からの委託児の積極的な受入れということで、加西市の子供の受皿を安定させていきたいと。確かに供給過剰になるかもしれませんが、供給過剰がダメなのか需要を満足させられないまま終わるのか、人口増対策を図りながらですけども、受皿がないのに叫んでてもしょうがないというところもありますので、とりあえずは積極的な受皿を整備してはどうかということでは進めておるところです。

- E委員 普通、量の見込調査で地域別で加西市は広いですから、大体4つか6つぐらいに分けて、ここで将来的に20歳人口が何人いてどれぐらい増えるっていう予測を立てて量の見込をされているっていうのが。
  - 事務局 子ども・子育て支援事業計画の話ですね。それはもう十分に計画予定はしてるんですけども。
  - E委員 そこから出てくる数字が。
  - 事務局 ではまだ足りないです。
  - 教育長 事務局さんね、A委員が言いよってのは、要するに足らなくても今ある施設をもっと、例えばゼロ〜2歳児で使えばいいじゃないかという多分お話じゃなかろうかなと思って聞いたんですけどね。
  - 事務局 施設は増やせるという。
  - A委員 そうじゃなくて、さっき教育長が言っていただきましたけど、場所はあるんだと。部屋が足りないんじゃないかと、人が足りないからこの供給不足は増えてるんだと。だから、今加西市が小規模に今、事務局のほうから足りないから、当座はやっぱ供給が先だろうと。長期的な予測よりもとりあえず今入りたい人がいるんだから、それに対してはものを造るべきであるという。長期的には考えてないという結果的にそういうお話でしたけれど、私が言ってるのはそうじゃなくて、あるんですから、既に現在ある園の運用体制さえうまくいけば、この供給不足は解消できるはずですよ。
- 現に私のところも実際キャパを持っておりますけれど、保育士、保育教諭がいないんで対応できないという問題です。ほぼ、ほとんどそうじゃないかと思えます。そっちの目の向け方といいますか、解消をするための方向性がちょっと間違ってるんじゃないか、それを言ってる。だから、今図らずも余り先のこと考えてないんですけど、とりあえず今やってみたいな。それ言ったら言い過ぎかもしれませんが、そんな感想を持ったんですが。もう1回の保育士をどういうふうにして現在ある園に供給していくかという、それをみんなで考えてみてください。こんな形にならないですか。
- 会長 今整理してもらいましたように、施設環境としてもインフラ環境のキャパはあるというお話でしたね。ただ、ないのは人間的なインフラ環境が不十分なんで、キャパはあるけど受入れるのはなかなか難しいという。そういった意味では加西市で働く人材というものをどのように保育人材というものをどういうふうにするかという提案が非常に重点があるかと思えますよね。ちょっと今手挙げられて。
  - A委員 私どもでね、途中で保育士の。ごめんなさい。
  - K委員 親としてなんですけど、第一子がゼロから2歳だったら小規模のところに入れるのはいいと思うんですけど、例えば3人目、4人目とかの場合だったら別に入れられないといけないっていう

送り迎えの不便さとかもあるしなので、やっぱりA委員が言われたように、私も今ある所を充実させてもらったほうがいいかなと思ってまして、今、A園に行ってるんですけど、ちっちゃいお子さんも何人かいて、ゼロ歳児は入れなくて誕生日が過ぎてからしか入れないっていう、そこでもいろいろ聞いてますし、そこを充実させたらそういう声なくなるのかなとか、何かこの資料の最後ら辺にもありますが、市としては何かすぐに新しいものを作ろうとするけど、もっともっとママたちの声とか、本当に必要なところの声をもっと吸い上げて考えてほしいなって今回すごい思っています。

何かとにかく形にしたら満足じゃなくて、本当に必要なのか、どういう世帯に必要なのか、どういう家族がいて、どんな種類の家族構成があってっていうのは、やっぱりもっと調べて形にしてほしいなって、ママたちは、私の周りの人にもこういう会議に出てるんだって言うと、一般の市民というか、公募しないとだめやけどその声をもっと言ってほしいというのは、何かとにかく形にするんじゃなくて、するまでのところをもっとしっかりいろんな人の声を聞いて造ってほしいなって思いました。

○会長 A委員どうぞ。

○A委員 今、いい声でいただいんですよ。言わなくても大丈夫ですが、私ども民間の立場から言わせていただきますと、途中で確かに子供が増えて保育士が足りなくなる。来年は多そうだといいところがあるんですが、本当に保育士不足、保育園の不足は深刻です。資格の保持者はたくさんおられますけれど、さてその人を採用できるかという別問題になります。いろんな方法で普通の新卒の方を採用する、それが一番多いんですが、それ以外にも人材派遣をお願いしたり、あるいは人材紹介ですね。現在は今もう人材紹介、就職を民間会社がいろいろ紹介してくれるという形です。こんなところももう本当に人手不足が極まりますと、私どももお願いしております。この場合は大体60万とか70万円ぐらい1人によって変わります。その方の年収の2割とかぐらいは要求されますので、1回1人雇うと6、70万円掛かってしまう。なかなかの経営には厳しいですけど、しかし対応しなければいけないと思うんです。こういうものがあるからなかなか場所があっても保育士さんをすぐ雇って、目の前にこの園に入れたいと、お兄ちゃんがいるからお姉ちゃんがいるからこの園のほうがいいんだという方おられますけど、対応できないんですよ。

○教育長 A委員すみません、その一番の問題って何をまずしたらそれは解決できる、それはやっぱりお給料ですか。

○A委員 いや、給料そうですね。今、給料競争みたいのところになっている面もあります。

○教育長 常にそういう話になるんですよ。

○A委員 明石とか、あの辺りはかなり水準を上げましたので、給料にプラス他市ですといろいろな特典みたいなものを付けて、採用するとき10万円別にあげるとかいろいろあります。加西市さんもその辺りを対応していただいて、今年から3年間で72万円、新規採用で72万円の一時金というものを設けていただいた、これ非常にありがたいことだと思っています。どんどん競争が激しくなるということで、保育士の給料自体はかなりよくなってます。数年前に保育士って非常に労働条件が悪いというふうにいわれましたけれど、今見たら民間のほうもほぼ公立さんと変わりませんし、それから保育士自体の給料水準は全体の産業で見ても25歳、27歳ぐらいの女性のもらう給料ですね。年間、年収なんか見たら決して悪くないです。むしろ、私はかなりいい職業じゃないかなとその分だけ見たらと思っています。

それ以外に休みの取り方とか、いろんなものがあります。そこで足らない、ただでさえ足らない保育士を各市町村が取り合いになってしまっているという、そういう状況がある。それに対してピ

ビジネスチャンスがあるからそういう会社が60万、70万でも払ってくれますから来るでしょうけれども、恐らくこういう会議では、それを公的にどんなふうに緩和していったらいいのか、そして各施設ができるだけ人が雇いやすくなれば、わざわざリスクを犯してまで新しい園を造って、将来的に供給過剰じゃないかという心配をしなくてもいいと思うんですね。今おっしゃったように上のお兄ちゃんがいるから同じ園に行きたいんだけど、当然のことですよ。そういう問題も起こりにくくなると思います。

○会長 全体のニーズ量から作るという観点じゃなくて、もうちょっとこの質を知って受け止めて、じゃどのようにそのサービスのインフラ環境を整えていくかっていうところのご意見がかなり主流になってきてますよね。

○教育長 実は、なぜ私がこの意見にちょっと深く聞いてみたいと思っているかということ、今加西市の大体施設の半分を教育委員会が持っているんですね。ほかのいろんなものを入れるともう60%ぐらいになるんですよ。私はどうもハードがソフトを食っているというふうに、すぐにそういう気が、ここんともう1年ちょっと経ちまして、いろんなことを見ておきますと、これハードにこんなもうちょっと何かするいうても何千万ですよ。そうすると、ハードを直してるだけで精いっぱいそんなお金も無尽蔵にありません。ふるさと納税あるってみんなイメージとなって、私なんかもどんどん要求してとか言ってるんだけど、こんな通りませんよね。当然、やっぱりふるさと納税というものをただただ当てにして何でもかんでもできるわけじゃないので。そうすると、何か施設を直すだけでも、それから何かするだけでも、もうすぐに5,000万、6,000万っていうお金がバンバン出ていく。そうすると、こんないっぱいあったらそれだけですぐに何億ですね。だから、やっぱりこれをハードを何とかせえへん限り、ソフトがよくなるないっていうところへ大変思い至っているところです。

もしもA委員がおっしゃっているように、もし今でも既存の園でキャパはあるんだけど、ソフト、人が足りないんだということであれば、そこへ投入する何千万かをそっちへ投入すれば、もう随分変わるなと。今、何千万で人が本当に育つかどうか、ちょっと疑問ですけども、それでもそういう考え方っていうのは十二分にあるんだなと思って、今ね。ああすごい、そうかそういうことかと思って今、ごめんなさい。もっと前に気がつかないかやいけなかったんだけど、ちょっと今、自分が行き当たってる問題にすごく突き当たったなって、これ園だけの問題じゃなくて学校もそうなんですけれど、だからちょっと皆さんのご意見を・・・。

○会長 これについては、例えばもう既に募集について周知っていうか、情報は提供してあるんですか。

○事務局 まだ、何も。今日初めてです。

○会長 そうしますと、これは差戻しとってはおかしいですけど、もう一度ちょっと議論してもらおうほうがブレない戦略になっていくのかなと思いますけどね。

○事務局 我々も将来的なことを考えておらないわけじゃないんですけども、民営化も進めていかないといけないという中で、今後我々というより私が一番気にしてるのは、加配を付けてどんどんこれから付けていかないといけないお子さんがおられるので、公立の役割としてはそこを重点的にやっていかないといけないのかなってところで、公立も既にオーバーフローしてますので、オーバーフローというか能力を超えたような体制でやっておるところですので、どうしても3歳未満児を受ける、結局人の数になるんですけど、先生の数を配置していかないといけないということが難しくなってきましたので、3歳未満児については専用の施設を当面増やしてはどうかと。既に市内の民間園さんは建て替えが進んでおります現状ですので、これをどう改善していくかというのは、



また現実的に難しい問題もありますので、じゃ今の困られている現実にはすぐ困っている方々をどうするのかということが複雑に絡んでおりますので、これはどうしても我々進めたいというふうには考えています。

○会長 現実の課題、それはそれで捨てるわけにはいきませんしね。

○教育長 ハードをあきらめたからそれがソフトにお金回るかっていうと、これもなかなか厳しいところもありましてね、そこをどうするのかなってというのがとてもありますけど。

○K委員 それママたちに意見をいっぱい聞かれたんですかね。アンケートとか、私はA園にいますけど、そういう話は聞いたことないし。

○会長 どの。

○K委員 ほんまにそういうのが必要と思ってるお母さんたちがどれだけいるかっていう。今、待機児童とかのお母さんたちはそう思っておられるかもしれないんですけど、もしじゃ既存の保育園でゼロ歳から預かりますよっていうのになれば、じゃどれだけの人がそこを必要とするのかっていう数値とかはあるんですかね。例えば。

○事務局 施設定員からいうともういっぱいですので、施設を増築して場所を確保すればいいんでしょうけども、公立としては今後投資する予定はないです。

○K委員 場所は十分あるんですよ。

○A委員 全部調べたことがありませんけれど、私のところの例でいきますと、乳児、ゼロ歳児、ゼロ歳児の部屋が最初私どもは2015年に新築したんですけど、30名ってところでキャパがあります。しかし、実際に子供が保育士が少ないとそれだけお預かりできない。そうすると広い部屋に乳児さんがぼつん、ぼつんとなりますので、結局部屋を入替えて乳児さん狭い部屋にしました。その部屋は別の用途でも使っているんですけども、そういうのも人さえ、保育士さえ確保できればその部屋は活用できます。ここ数年で全て民間の園も、それから公立の園も大きくなりました。新しくなりましたので、余裕を持って造ってあると思うんですよ。ただ、運用の仕方の問題です。運用の仕方はやっぱり人ですね。人を確保しないとどうしようもならない。

○K委員 A園は1つ部屋空いてますよね。A園も。場所は多分あると思います。1部屋多分空いてると思います。

○事務局 要は今の現状もあるんですけど、人の配置がなかなか確保できないのが今の現状、公立であっても今、A委員を始め私立であっても、今の現状では保育士の配置ができないので、ゼロから2歳については今のこの現状、受入れる人数がもう決まってくるということで、仮に受入れてもらえるのであれば当然、それを認可というか、変更して受入れてもらったらいいいんですけども、今の現状、私立も公立も受入れられる今の現状でいっぱいいっぱい新しく受入れられないので、だから今入りたいという方がおられたときに事業者を、いやうちとこは事業をやって、ゼロから2歳までの間の子を受入れますよと、やりますよという事業者がおられたら、そこをお願いしようというそういう考え方なんですよね。

だから、もし今の既設の園の方が、定員を増やしてやりますよって言ってくださったらそれにこしたことはないんですけども、それができないと言われるんで、それを今このことを解決しようとするれば、新しい小規模、要はゼロから2歳までだけの本当に最大19名という定員ですけども、その園でそれで事業の経営ができるといわれる事業者を募集しようという。それが今からさき少子化が続く中でまだ20年、30年、本当に続くかといわれれば、そこら辺はちょっと非常に疑問が残るところなんでありまして、でもそれでも事業に参入しようと言われるところがあれば、そこを期待をしたいということなんです。

- 教育長　でも、そしたらA委員のところは全く白紙にして、じゃうちもそれじゃ小規模に自分とこの施設を使って応募しますっていうたらどうですかね。
- 事務局　認可変更されて定員さえ変えれば、今の施設がありますので、今の既存のところでも募集の、今のゼロ歳から何歳を何人募集というやつを増やされれば、当然自動的になると思いますけども。それができてもらえないので、それはできないということなので、公立も私立も、だから新たな配置策というか手法を入れたいということなんですよ。
- A委員　認可変更できないのは、部屋がないからじゃなくて増築しないとか、部屋はあるけれど。人を確保するのが難しいからと。人を確保する方向にこの会議で考えていったらどうですかという。足りないからそこへ造るといふんじゃなくて。
- 事務局　だから、その新規の新しく保育士になられる方に対する、それは時限的な3年間という期限つきですけども、新たに加西の保育士になられた方については一時金を出しますという制度を作っているんですけどね。それを活用されている園もあります。あるんでありますけども、でも今ある34人という今10月1日現在、34人の方をどうやってその方のニーズを満たして、そのことによって加西に住んでもらって加西で働いてもらうためにはどうしたらいいんやということ考えたときに解決策というか、一つの方法としては。それからもう一つ、子ども・子育ての計画でありますけども、5年毎に作るんでありますけども、そのときにアンケート調査、当然、ものすごく分厚いアンケートを取ってるんです。その中で昨年度は3園程度の募集ということで、実際は2園ということになって、さらに今の現状を見るとまだ足りない、ということなんですよ。そのときはコロナということもちょっとなかったんで、新たな社会変動というか、そういうのも入ってきて、現状が変わってきてるなということなんですよ。
- A委員　保育士が足りないから供給できないんだと言うてるんですけど、そしたら新しく小規模を2つ、3つ造っていても、保育士不足は解消しませんよ。場所が増えてるけど。加西市全体の福祉は不足したままですよ。これ矛盾があると思いませんか。今おっしゃってることに。保育士が足りないから供給一。
- 事務局　事業者は保育士を確保して初めて申請があるわけですよ。
- L委員　先日新しく募集、4月1日に開園される園の何か求人広告みたいなのが入ってて、今からなんやと思ってという感じなので、多分事業者さんは保育士確保しているから応募っていうわけじゃないと思うんですよ。やっぱりできる見込があるから造って、じゃ今から人集めなって思ったら人が足りないって、実は焦っているかもしれないですし、多分加西市の就職っていうことでいえば一緒だと思うんで、でも箱を作るのはどうかなって思いました。
- J委員　せっかくなので、公立の園代表の園長先生のC委員がおられるので、今の公立ではあるんですけど、園の様子だったりとか、先生の働き方とか、先生方のそういう意見というか、もうちょっとお聞きしたいんですけど、大丈夫ですか。
- C委員　公立園でもう正直、人手不足が何年も続いております。市のほうも随時募集をかけて、それから採用して下さってるんですけども、やはり集まってくるのはパートさん。2時、2時半まで、3時まで。一番子供たちに手が掛かる時間に帰られてしまう。それでも、その方を採用しないと人がいないっていう現状が正直なところなんです。それでも来て下さってるっていうのはとても有り難いんですが、今までですとまず子供を募集します。じゃ、例えば2歳児は24人受けます。24人受入れてから職員を探す。職員がないからパートで、後はつなぎで頼むっていうような、正直そうやったんですね。私たちの思いとしては職員がこれだけいるから、これだけ受入れができますよっていうところででしたら余裕もあるんですけども、それが逆転しているようなと

ころが昨年度まではありました。

そういうところが職員のやっぱりいろんな不満につながって、しんどいであるとか、些細なことでもちょっとしんどくなったりとか、というような具合で休職で入院したりとか、無理して体調悪くしてっていう方も正直あります。もう少し学年に1人フリーの先生がいるとかでしたら、働き方も余裕があったりして、定員24人なら24人受けますよっていうことが言えるんですけども、もういっぱいいっぱいのところ毎日仕事をしているものですから、現場としましても今のところはもうこれ以上はお願い、いっぱいいっぱいですっていうことを言いたいんです。

でも、これから先ずっとデータも出ていますけれども、それこそ令和2年度には190人しか生まれていない。令和3年度は170人でしたっけ、170人しか生まれない。目に見えて少なくなるのは分かっておりますので、育休制度っていうのも取れたらいいんですけども、そういうふうな育休制度も利用していただいている方はゆったりとお家で保育していただいたり、また子育て広場のほうも充実させていただくことで、お母さん同士がいろんな保護者につながりながら、子育て、いろんな情報を得ながらできるのかなと。もちろん我々子育て支援ということで、園庭を解放して来てくださるよっていうような日も。もう今はちょっとコロナでできてないんですが、近い将来再開していくことを予定してるんですけども。

今一番しんどい時期を迎えていると思うんです、待機児童がいて。これから何年か先にはもうちょっと落ち着いてくるのかなっていう甘い考えなんですけれども、それこそ建物がボンボンと出来てしまって、実は幼稚園がそうだったんですね。地域住民から各校区に幼稚園がほしいということで次々とできました。でも今、今というかも少し前から、それぞれ休園っていう形で。幼稚園という形になり、今はさらに校区を超えてこども園という形になって、それはたくさんの子供と関わりながら、またいろんな先生に多面的に見ていただくことで子供がよりよく成長できるようになってきたっていう良さは本当に実感しております。何かそれに似たような現象がまた、それこそ子供の取合いじゃないですけども、そうなのはいけないなど。今、皆さんの話を聞きながら思っていました。

○D委員 今までこの件については全部ずっと聞いてて、新しい施設を造っていく、その話の中には多分事業体を決めたら人材を確保してくるのは、もう事業体に丸投げでそこは市はあんまり関係ないよみたいな雰囲気が取れたんですね。だから、新しい施設を作ります。そこに勤める保育士さん、人材については新しい関わる事業体に任せるから、こども未来課自体は直接どうのこうのって、全然頭がないのかなっていう。ほんでA委員がおっしゃった既存の園で、もっと人材確保するのに助成してほしいであるとかっていう部分には、すごい渋いのかなっていう印象を今、私自身持ちました。一民間企業体として、やっぱり人を雇ったら簡単に今も手が空いたから辞めていただけるなどとは言えないです。

小さいお子さんのニーズがある、その子供達の場所はあるから人を入れてお預かりしてもいいけれども、そういう子たちは1、2年したら3歳児、4歳児になっていって、じゃそれで今、今年生まれた子がどんどん少なくなっていくっていう現状で、3歳児未満の子供たちの保育をするために雇った保育士さんってどうなるのっていう話になっていって、じゃ1、2年の勤務でもうちょっと人余っちゃったから、辞めていただけないかなどとは言えないから、その辺の長期的に人を雇い込んだら、長期的に雇い続けれるめどを立てれるような計画であるとか、補助であるとか、そういうものを既存園の方は期待されているんじゃないかなって私思うんですけど、A委員どうですか。

○A委員 おっしゃるとおりです。やっぱり人を育てていかないと、これが一番大事だと思いますね。保育とか教育とか全部とりあえず足りないから、コインロッカー増やすね、増やしたらいいん

だという問題ではありません。それが必ず人間が対応するわけで、そしてそれぞれの家庭もあり、それから先の長い人生もあるわけですから、その後の人生の中の数年間を対応するわけですが、それをどんどん入替わるとか、あるいは勤めている人は来年、私はここにいれるんだ。私の首はどうなる。それでは、まともな仕事できないですね。

やっぱり、長期的というか中期的に何年か先を考えて、園側もこういうふうに人を育てたいと思いますし、保育士さんもその方向で伝えてくれるとか、自分でいろんなことを考えて成長するとかいうことには必ず経営の安定が必要になります。3年先分からない、子供減ってしまったら辞めて、そしたら一応首を切ったらいいんだと。これって今、企業でもやってるところありますけど、大変批判されてますよね。まして子育てとか教育の問題に経済的合理性をまず前提に考えるというのは、私は間違いだと思っています。現在の園をとにかくパワーアップするような形で考えたかということです。ありがとうございます。

- B委員 私も、今皆さんがお話の中で言われた現場の人間としましては、本当にそれが一番言いたいところですし、今どんどん足りないからということで入れても、経営者側としてはその人材をいつまで確保しておれるかっていう、そこはやはり先を読んでおかないと、足りないから足りないからというふうにその時点で考えて入れるっていうところは、本当に後にどんな展開がやってくるかというところも見越して、雇い入れるっていうところもありますし、今現状は私とこ小規模園を開設しましたけれども、皆さん今おっしゃってましたように、お姉ちゃんは別な園に行っていて、ちっちゃい下の子供さんはうちの小規模ということで全然場所が、距離が違う。だから、お母さんがすごく大変な様子が見られますし、「お母さん、お姉ちゃん先送ってこられたんですか。」っていうふうに言うと、「いや、今日はね、おばあちゃんにお手伝いしてもらっておばあちゃんに送ってもらったんです。」っていうふうな現状も聞きますし、それから一時預かりの申込みもたくさんうちの園にもあるんです。

預かってあげたいにも関わらず、その子に対応できる保育士がいないというのも現実ですし、それからさっき事務局がおっしゃってましたように、加配が必要な子供がたくさん年々この加西市もたくさんいらっしゃると思うんです。その対応の保育士も確保しないといけないっていうところで、本当にまたシフトのやり繰りが本当に大変です。また、昔と違って休憩時間も入れないといけないっていうのがもう労使で決まっておりますし、それから代休、有休、それどころ先生消化するようにさせてますので、そのところの代替教諭、1時間の休憩45分の休憩でもそこに誰かが飛び入りで入らないとけない。だから、もう本当に私とこ40人ほどおりますけれども、その中のシフト毎日やり繰り、本当にもう大変な。ああいうソフトがあればいいなと思うぐらい。

あるんでしょうけれども、そんなところは私とこは扱ってませんけれども、そういうところもありますし、早朝保育、延長保育、土曜預かりの保育、そういうのもやはり皆さん、余り好まれないんですね、保育士の方。やっぱりコアな部分はたくさんいう程でもないですけど、現実にはありますけれども、早朝の7時に出て来られる先生、また延長の7時まで残ってくださる先生、土曜預かりの担当の先生、土曜日も私とこの現状を言いますと、年々土曜預かりが増えてきてます。土曜日もうやはり乳児が増えてきてますので、乳児の対応の配置人数を事前に調べて対応しないといけないし、本当に先生たちの苦労は私も一番現場の人間としては大変な職業だな、でも処遇改善が当たるようにもなりましたし、以前とはちょっと違うようにもなっておりますけれども、やはりこの職業っていうものは、社会の上の方がもう少し見るところは見て、現実をまた改めるいう方向に持っていただかないと、保育士は続かないんじゃないかなっていうところもありますし、それと正規の先生と非正規の先生との、やはり私たちは同じようにっていうふうに思いますけれども、

非正規、非雇用なんだからっていうふうにはやはり書き物ですね。書き物とか、いろんなところが弱いついていうのか、私はそんなしたくないっていうように正規の先生がそれしたらいいんですけどっていうような思いの先生もいらっしゃるんでね。

私はもう本当のサポートでっていうふうには、新任の先生でも担任は持ちたくない、サポートっていうのがこの頃の学生さんの傾向にあるっていうようなところも聞いております。責任を取らないといけないっていう立場の者は、やはり若い方は楽なほうに楽なほうにっていうふうなことを考えておられるというのも、今の傾向にあるっていうところも聞いておりますので、そういうところやはりこの現場の保育士さんの状況というところも、少し皆さんも市民の方もいろいろこういう対応をされるような方も、もう少し考えていただくと有り難いかなっていうところにもありますね。

保育士さんの子供さん、その子供さんも自分とこの園にも入れられないっていうところもありますし、別の園に入りたいっていう保育士さんのお考えもあると思いますけれども、うちもたくさん保育士さんの子供がうちの園にっていうところを利用してくださってるんですけども、よその園の保育士さんの子どもを私とかが預かる、そういうのが今ちょこちょこ見られておりますので、やはり保育士としてはやはり一線は親子で置いとかないといけませんけれど、親としたら、保育士としたら我が子の姿を自分の間近で見れるっていう、そういう特典もあるかなっていうところも考えられますし、だからいろんな問題、現場の人間としましてはいろいろな思いがあるんですけども、なかなか今の現状と規則の中で動くっていうところは、本当に今大変な状況だと思いますので、一番は保育士の不足だと思います。

私とこも年度途中から小規模をスタートしましたからあれですけども、なかなか派遣会社とかいうふうには言ってますけど、年度途中ですから余計にそれが難しいところもありますし、4月の開園のところだったら学生さんとか、そういうような方がいらっしゃるかも分かりませんが、でもお金はかなり掛かりますし、経営する側としましたら、何10万というところをそこに費やせないといけないっていう新たな問題も出てきますので、何かそういういろんな面を捉えながらの運営っていうと、本当に難しい現状だと思います。

○会長　会長としてですね。どうぞ。

○事務局　来年開園予定のところの話、ちょっとだけお話をさせていただくんですけども、今まだ認可の手続を今から進めるところで、建物とかも今からというところではあるんですけども、募集しまして、それから採択に至る経過の中では何社か応募がありまして、ご存じのとおりB園も手を挙げられまして、2社の採択がありました。その際にA社さん、今度開園するのがA保育園というのが開設する予定ということになっておりますけれども、そちらのほうの説明の中で実際にされているんですが、保育士さんをオンラインの講義でそれがどれぐらい実行性があるかというところもあるんですけど、オンラインの講義で保育士さんを育成する。

「本当に保育士になれるんですか。」って聞いたら、以前に他市のほうで募集をされた際にオンラインのほうに来たのが10名ほど受けられて、合格者が6名ほどおられたと。「6名そのまま採用されたんですか。」「いや3名取られました。」って言って、3名だけうち来てもらいましたということがありまして、他3名はまた別の園に採択、採用されたというようなところがありました。そういったこともあり、A保育園、保育士の確保というところはある程度めどは前から立ててるんですけども、そういったことも努力をされているところというのをまた、このたびは委員の皆さん、私が採択した訳じゃないんですけども、採択していただいているのかなというふうには思っております。保育士の確保策、確かにおっしゃるとおり市のほうで、なかなか手出しできるものではないんですけども、そういったところを評価したというふうなところはあったのかというふうには記憶しており

ます。

○A委員 このお話だけで市が乗ってしまうっていうのはどうかなと思うんですよね。他市のほうで、オンラインで資格を取らしたという話ですけど、ということは無資格の人はオンライン授業を受けて、講義を受けて、そして試験を受けて国家試験ですから、6名合格したと。では、加西市でそしたらそれをするというを考えている場合に、じゃ現在資格はない人でそれをオンラインで受講して、試験を受けてみようという人が何人ぐらいいるのかと。あるいは、その人たちはどういう年齢、階層の人なのか、どういう働き方を希望している人がいるか。資格を取って、そしてフルタイムでこども園の中で働きたいのか、あるいは別のことで保育士の資格というのはいろんな形に活用できます。保育園だけじゃないですよ。

いろんな施設ができますので、放課後等デイサービスなんかでも全部オーケー。そういうところで働こうとしているのか。そういうところを多角的に検討して行って、違う角度からそれでオンラインという話が生きてくるというか、それが本当にこども園で働く人たちを採用、育成しているのか、また希望者が実際この地域にはいるのか、いないのか、そこまで考えたらいいですよ、その話は成立すると思うんですけど。前やりました、じゃ加西もできるかな。それはちょっとどうかなと思いますね。

○事務局 努力されていくかなと。

○教育長 事務局が言いたかったことは何。

○事務局 保育士の確保というところですけども、市のほうで手出しできないところもありますけども、そういう確保策を練っておられるところというところが今年小規模保育園・・・。

○教育長 ご参考までにということですか。

○事務局 そうです。ですので、全く市のほうとして保育士確保を手をこまねいているというか、何も無策であるというふうなことではないかなと。

○会長 時間もありませんけども、実際に市のほうでいわゆるニーズの方が10数名いらっしゃる、その方々をどうするかという現実課題はありますよね。ハードなキャパはあるけれども、人がいない。だから、受入れられない。じゃ10数名を切り捨てるかというたら、これはもう非常に忍び難い、本当に辛い現実があります。そうはいいいましてもすぐ、じゃ人材確保すればいいかって、なかなかすぐにはできないというような状況もあるだろう。もうちょっとこの議題、課題については、エンディングはちょっと今日いろんな角度からご意見いただきましたので、もう一度何か現実に照らして事務局で検討していただく課題としてもらったほうがいいような。今日ちょっとこれじゃ募集、このとおりでやりましょうという結論にちょっと至らないというような感じがしますが、どうですか。

○事務局 もう待ってる方、先ほどちょっと言っていたんですけども、保育士の方はよく分かりました。兵庫県も県下で協議会を作るんですけど、私一方的にあほみたいな話をいうて、広域調整してくれいうて、保育士の確保をね。何いうてんねんって言われると思うんですけど、そういうことも議題には提案しています。それはよく分かったので、我々も保育士の確保についてはもう1歩、今障害児保育、加配については上限1名180万、これは民間園に補助しているところです。定着一時金というのも確保しています。明石、神戸に行けば8万円の家賃を全額補助していると、保育士の。そういう例もそれはするというわけではないですけど、かといって明石、加古川に行けば、どんどん小規模保育園をして子どもの受皿を作っていこうという、待機児童の保留をなくそうということはどう進められていると。今後おそらく調整が必要だと思います。

でも、直ちに今何とかしてほしいという声を私は今、無視できない。じゃ違う保育園へきょうだ

いが行ったと。いや、その下の子はそもそもいけない状況なんですね、今。違う保育園でも行けるようにしてあげたらどうかということをおっしゃるので、ここ公立も今後正直言いまして、新規採用もないと。していけないと、民営化するに当たってですね。会計年度任用職員を募集したところで、やっぱり民間の正規職員の採用の方が優先されていくと。そら積極的に大学にも営業できますのでね。我々は大学にも営業できない状況で、どうしたらいいんだということを私何も考えてないつもりはないんですけど、直ちに今待っておられるお母さん方をどうしてあげたらいいんやということを考えた上で提案していますので、それはこども園の経営は経営で、また別の話であるでしょうけども、これを止めるということは今じゃ先送りするということにしかならないので、今後この結果どうなるか分かりませんが、需要はどんどん際限なく増えてくると、当面はですね。だから、5年後、10年後と考えると今止めるということではないと思っています。

○会長 例えは悪いかもかもしれませんが、患者さんが病院に来て一応エクモがないからお断りしますというわけにはいかないですよ。例えばね。それと同じように、非常に深刻なやっぱりニーズっていうふうに待ってらっしゃる方がいらっしゃるということは、私非常に十分理解ができますので、それは何とかしたい。人材については、例えば市が責任持って人材を確保するというような具体的なとか、条件をつけるならばこの募集ということもあるだろうと。事業所が既に適当にやってくさいではなくて、市として責任持って確保すると。こういったようなこととして受け止めていただくのであれば、この募集について判断いただいてもいいのかなとは思いますが。

○A委員 3歳未満の受入れが不足していると、ゼロ、1、2がという今も待機児童入ってましたけど、でもゼロ歳が何人なのか、1歳が何人か、1、2歳が何人か、そういう予測じゃないですよ。とりあえずゼロ、1、2で何人足りない、待機児童が何人ということで、今、先ほどC委員もおっしゃいましたけれど、育児休業というのを利用する人がかなり増えてきました。そうしますと育児休業、そして子育て支援という体制を整備すれば、1年間は家庭でお子さんを見ながら子供を育てようという人も増えてきてるんですね。わざわざそこで施設を作らなくても別の方法があるんじゃないかと。もう施設ありきっていうんじゃないで、もう1つ別の見方もあるんじゃないかという、そこを検討していただきたいと言っていました。需要予測ももっと細かく需要予測するべきですよ。個々に応じてゼロ歳の場合がいつまで子供を預け、いつから復帰するのか、いつまで家庭で見られるかと。そんなことも考えられるんじゃないでしょうか。

○事務局 補足ですけど、一応募集で最終的には保育士が揃わないと開園できない。優先交渉権を与えただけですので、認可を与えたわけじゃないです。結果的に保育士が揃わなければ、流れてしまうということでございますので、2園決まったから絶対出るんだということではございません。ちょっと補足ですけど、当然保育士が確保できて我々は認可します。

○教育長 事務局さんね、今さっきの議論の中でむしろ私がそっちにおったら言うやろなっていうようなことがやっぱり出てるんですね、いろいろね。私、こっちにおるからなかなか言わないだけで、1つはやっぱり人の確保の問題、それからそんなどっかに丸投げしといたら市はせんでもええんちゃうんかっていうふうに感じられるっていうのは、これはやっぱりかなりきついという話ですよ。我々がきちんと受け止めないといけない、やっぱりここだと私はすごく痛感しました。だから、もう一回こども未来とも話しまして、そういうの箱物とソフトの問題も含め、ただ事務局が言ってるように、やっぱりじゃ今実際なかったらどないするんですかということも、ある意味では大変切実な問題でもあるので、そういうことを変えようとするとならやっぱりもうちょっと皆さんおっしゃっているように大きな考え方を少しずつ変えていかないとほんまにいけない状況だなと。

子ども・子育て会議っていうのはやっぱり、だからこの議事録は必ず市長部局、それから人口増、

全部回してほしいんですけど、市全体としてやっぱりどう考えているのか、人口増ということは、この会議が一番の最先端ですよ。そこできちっとしたことをやらないと人口増なんていうとったって、人口なんか増えませんかよっていうところもやっぱりあるわけですから、それはシリアスに受け止めさせていただいて検討させていただくというふうに、事務局どうですか。納得いきませんか、それでは。せっかくやろうと思うとのに。

- 事務局　もともと去年募集したときも3園程度募集しようということで始めて、最終的に適性な提案があったところが2園ということだったんですね。今回それで1園、愛の光ナーサリーさんだけが開所されて、状況を見たときにやっぱりもう1園でA保育園さんも仮に開所したとしてもやっぱりまだ足らなというのが今の現状、今の数値から見ると明らかに分かるわけなんですよ。もう1園開園したとしても、今のニーズ、もともと考えておったところにまだ届かないなど。まだ要は希望しても溢れる人が出てくるということがあるので、それやったら2園と言うてましたけど、地域性がありますんで、市街化区域とか、あと企業さんの活動のこともあるんですけども、少なくとももう1園はそういうニーズは少なくともあるやろうということですね。今回仮に保留ということになりますと、実際やろうとしたときに1年ぐらいは確実に遅れてしまうということになるんですね。

子供の出生者数の減少等を見ておられますも今、教育長もおっしゃられましたけども、子ども・子育てのここの政策というのは、人口増なり子供も女性も暮らしやすい地域を作るなり、一番基本になるところであって、そこについてはやり過ぎるぐらいやったとしても、まだやっぱり選んでももらえない。そこに定着してもらえないということもあるかもしれへんなど。要は、この小規模だけじゃないんですけども、いろんな施設にしても加西はほかのところから見れば、ちょっとまだ不足しているものがたくさんあるのかなというようにもなっておりまして、今このことについて、先ほどE先生もおっしゃられましたけども、女性の方、子供を持たれた方からこう言われてる、何か逆なんでもちょっとその辺は喜ばれることは何かちょっと違うような感じなんで、ちょっと私もあれなんですけど、要は今提案していることについては、今回新たにプラスして言うてることじゃなくて、去年からお願いして申し上げていることを、実際結果としてこういう現実問題の数値が出てきましたので、この部分はやっぱり今させてほしいという・・・。

- 教育長　そうやけどね、以前から言うところから、それでええやろうっていう問題じゃないよね。
- 事務局　今も利用定員を超えて受けているんです。弾力条項を使ってね。既にオーバーフォローしてるんで、どこの園も。弾力条項使って120%を受けているので、そんな状態もよくないということは思っているんです。なので適正な受入れ体制というところも配慮した上で、大規模園を造ろうということではございませんので、一応小規模園で実際3歳児未満の方が困っている状況を解消したいと。利用定員を超えて弾力条項を使って120%を受けている状況を解消したいということが目的にありますので、適正な100%の受入れ体制と。ここで保育士が不足していることがよく分かりましたので、そこについては我々も考えていけないといけないと。県のほうにも海岸線で一方的にやっぱり需要を満たされておりますので、どうやってこちらのほうに誘導できるかということとは考えないといけないということで。

私どもは余談ですけど、産業振興課に3月までいたんですけど、どこの業界も人手不足が常態化しております。この業界だけじゃございません。そこを何とか解消しようということで、社会福祉事業者さんも民間事業者の一般の民間経営者さんも努力されているところではございますけども、協力せえという話じゃないですけど、ここの業界に限ったことじゃないということは、私は感じておりますので、その中でどうやっていくかということは、企業経営の中でご検討していただくもの



というふうに思っております。

○会長 ニーズは十数名ということで、これは緊急性のあるニーズだろうと思うんですね。5年先にじゃなくて、今やっぱりニーズっていうのがあるという数値としては承っております。例えば、全体のシステムのバランスとかの課題というのは、ご指摘いただいたとは思いますが。繰り返すんですけど、やっぱり人材不足っていうこと、ここは何とか克服しないと受けられないという現実がありますので、これは提案される市としても責任を持ってそこは確保を何とかするというご意思を確認できるならば、この1園程度か2園程度か分かりませんが、進めていただくということで会長としては提案したいと思いますが、いかがでしょうか。ちょっと時間、ほかの案件もありますので。苦渋の判断です。

○教育長 すみません、E委員、人材というものについてはどんな状況ですか。

○E委員 近くで養成をさせていただいていますが、保育士希望の高校生がすごく減っているという現状です。18歳人口が減っている。保育士を希望する人が減っている。例えば、姫路なんかでしたら大体60人ぐらいが神戸市の短大、大学に行きます。神戸市とか西宮に行くと、もう帰っては来ません。神戸市と姫路市の採用試験で合格すると、みんな神戸市、明石市に行きますという現状です。保育士さんたちが大体7年勤めたら一旦職を去られるんです。その理由は仕事量が多い、自分の子育てがしたい、それから介護がある、職場の人間関係、そんなことで退職されます。一旦退職した保育士は復職するかといたら、看護師と比べてすごく低いです。看護師さんは一旦退職、あるいは育児休養を取っても必ず復職されるんですけども、保育士さんは元のところに戻るといのがかなり低いです。4割なかったと思う。そんな現状があります。

なぜ、保育士さんが18歳人口に魅力がないのかという辺りはよく分かりません。そこはもう養成校として学生募集にすごく困っています。例えば、県内の短期大学の養成校で定員に達しているところは、A短大というB短大が一旦こうなってからまた、新たに出来たところだけです。あのC短大でも半分しか今年に入ってないという状況です。魅力がないんだと思う。ほかに魅力があるのかも分かりません。人と関わるとか命を預かるというところで不安を持っているのかも分かりません。とても大事な仕事だと思うんですけども、何か魅力がないのか、続かないというのがあります。

先ほどからの話を聞いていて、さっき言われた会社はもうちょっとごめんやけどって思うようなところなんです。この業界にいたらそう思います。例えば、今ここで加西市で子育てをしているお母さんたちのグループがあると思います。お母さんか高齢者もいらっしゃるかも。その人たちを養成して、というのは退職した保育士がいっぱいいるわけなんです。潜在保育士というのが、その人たちと一緒にNPO立ち上げる、一般社団法人を立ち上げる、それをバックアップされたら場所はあるわけですから、当面の解決策には企業よりも保育の質としては私はいいいのではないかと、そんなふうにお話を聞いてて思いました。

○F委員 私も養成大学で加西市からも本学に来ているんですけども、おっしゃったように本当に学生募集に苦労しております。私たちが高校に行って体験授業というようなことをしまして、保育者の道はいかがですかみたいな魅力をアピールしてくるっていうようなことで、学生募集にも苦労しています。でも、一旦入ったらやっぱり保育士資格と幼稚園教諭の2つを持ってないと認定こども園で働けないので、やっぱりかなり短期間に資格取得っていったら、たくさん単位を取らないといけないので、途中で挫折しそうな学生も本当におります。特にオンライン授業とかで去年はやりましたので、やっぱり保育の仕事っていうのは、対面でこそ実際に教育の現場に行っこそ、何かやりがいていというのが感じられるので、ちょっとその辺の学生の心が折れそうになったところを

励ましながら、しっかり資格を取ろうというようなことで支えています。

保育士不足というようなことで今おっしゃったんですけど、学生はやっぱりしっかりと学んだら現場で働きたいということで、就職フェアに熱心に参加しておりまして、ちょっと私すみません、加西市の就職フェアっていうのはちょっと情報まだしっかり持ってないんですけども、学生がやっぱり神戸の就職フェア、明石の就職フェア、姫路にはたくさん参加をしているんですね。結構巡回で私も加西とか小野とか加東とか行かせていただいて、学生に「どうだった」って言ったら「すごくよかった」って。でも、やっぱりちょっと町に出てみたいっていう学生がいるんですね。でも、私加西市で何園か行かせていただいたけど、本当に施設が充実してて、すごく子供たち、広いんですよ、とにかく施設が。だから、園庭も広いし建物もゆったりとした中で過ごしていたので、いいなっていうふうに思います。というのは、私が神戸市の公立幼稚園に勤めておりましたので、公立はとってもう地味で、もう施設設備も古くなっていますし、でも勝負するのは教育の中身ということで学生にもやっぱり保育士を目指すんだから、保育の質っていうことでそこはしっかりとっているんで、子供の命を守って、しかもそれで教育をしていくんだよっていうのをよく伝えているところでございます。

- 会長 養成校の現実もいろいろ承知してはいますが、事務局もどうですかね。2施設ということで少人数組織のそんなにたくさんの人材ではないかと思えます。それでも、1人でも2人でも大変だと思いますけど、今お話聞いていただいたように加西市の事務局としても人材確保を事業所とタイアップして確実にやると、こういう条件を持ってちょっと進めていただく。丸投げしちゃうと入れ物ができて、子供は来たけど、そこで指導する人がいないと、これはもう詐欺に近いですから、そういうことはないように強烈的な条件をつけて募集するというのを会長としては、提案してみたいと思えますがいかがでしょうか。
- 教育長 F委員に「いや、加西市はいいですよ。」って言われてちょっとホッとしたんですが、もっとそういうこともやっていったら就職も増えるとか。
- 事務局 やってます、今年は5月の22日に就職が解禁になる前に、ちょっとコロナの関係でどういうふうにするかということもあったんですけども、私立園さんの担当者の方とみんなで協力をして、結構いっぱい来てくださったかなという。いっぱいでもなかったかもしれんけど。
- 教育長 そういうときに例えば、ここのお二方のやっぱり意見はちゃんと聞いて、ただ学生たちがどうやったら惹きつけられるか、そういうこともちょっとちゃんと検討したほうがいいと思うよね。
- 事務局 昨日の新聞記事でもA福祉会の話が出ていて、確実に確保していると。やっぱり私も産業振興課におったとき民間企業さんはもう日頃から確保についてはやっているところとやってないところ雲泥の差がつかます。ついてます実際に。加西の民間園さん、それなりに確保してやってもらえると私感じておるんですけど、なかなか公立園では正規採用というのが抑制されていますので、なかなかできていないということは現実でございます。だから、丸投げというか企業共同経営としては確保していかないといけないので、それは当然前提として認可もするし募集もすると。それが無い限り明石行っても加古川行ってもどこに行っても、前提がないことには認可なんて当然してないんです。実際してませんので。そこが一番ネックになる場所ですので、当然会長がおっしゃったようなところでは最終判断をしていかないといけないと思っております。
- 会長 ぜひ加西市株式会社として、人材確保本気ですするという条件でこの枠組みを設定するということとして、会長としてはまとめたいと思えますけども、いかがでしょうか。
- G委員 1つだけ質問していいでしょうか。A委員のお話聞いてまして、若い大学卒業した子供

たちが保育士になってくれたらいいと、最悪の場合、退職された方をもう一回来ていただけるのも一つの案であるというふうなお話を聞いたんですけど、内容をまとめますと、園としては退職された方に来ていただいても、歓迎される、そういう思いなんではないでしょうか。それともやはりある程度年齢が来ていけばちょっとという思い、どちらなんですか。

- A委員 私どもの事例になりますけれど、私のところは後で帰ってきてくれる、ウェルカム、大歓迎しています。実際に一度子育てとか出産とか、いろんな形で一度辞めるんですね、五、六年と勤めて。その後30代過ぎてからカムバックしてくれた人が今5人ぐらいいるかな。その人たちは本当によくやってくれますし、やっぱり前にいて私どもの園のやり方っていうのは分かっておりますし、上にもあがっていきますので、そんな人は大歓迎ということ。声も掛けております。もし、子育てがそろそろ終わって、あの人大丈夫違うかな、手が空いてきたん違うかなと思って、声を掛けたりするんですけども。
- G委員 ありがとうございます。
- F委員 私ここは就職フェアで実習生でもありましたから、あれですけど一人繋がっております。
- 事務局 それで確実に確保できるということは思ってませんが、そういうこともして行かないと確保できていかない、1つのツールとしては継続していきたいと思っています。
- 会長 ということで、強烈な条件で責任持って人材確保していただくという前提で、苦渋の判断ですけど、この募集については進めていただきましょうかね。会長判断でお願いします。ちょっと時間がないので、あとの2つの議題、とりあえずちょっとご説明いただきましょうかね。3番で北条東こども園民営化取組状況についてお願いします。
- 事務局 お手元の資料の3ページから5ページまでの分であります。北条東こども園の民営化につきましては、昨年10月1日に移管予定事業者を決定いたしまして、それ以降民営化についての調整をしております。今年度、令和3年度におきましては、ここに書いてありますように保護者の説明会を3回行っております。第1回は5月24日、第2回は7月29日、第3回は9月29日です。この民営化を進めるに当たりまして、3者協議会ということでいろいろ民営化までの間でいろんな疑問点とか不安点があれば、その都度説明をいたしますということで、3者協議会という組織を立ち上げてやっております。最初に5月に開催したときには皆さんどんな感じを持っておられるのか、どんな質問があるのかということでアンケートを取りまして、そのアンケートのご質問に答える形での説明会といたしました。2回目のとき7月につきましては、だんだん1回よりも参加者が減ったんでありますけども、2回目もさらにご質問等があったらお答えいたしますよというふうにやりました。

3回目につきましては、大勢の場でなかなか質問しにくい方、個人的なことで聞きたいこともあるであろうということで3回目につきましては、全体の説明会という場を設けるのではなくて個別説明ということで時間を区切りまして、あらかじめ質問をしたい方の希望を取りましてやりました。今現在10月の11日から10月29日まで来年度令和4年度のこども園の申込みの受付をしております。本日の一番初めの議題でもありましたが、北条東すみれこども園として今現在の公立北条東こども園が来年から北条東すみれこども園という名前での募集となります。以降につきましては、第1次の申込みのほうが済みますので、次回以降におきましては決まった日時の説明会ではなくて、何かそういうご要望があれば、説明会なり、相談会を開催をしたいというふうなことで考えております。そういう状況でございます。

それが3ページ、4ページというのはそのときの内容のことをまとめたものでございます。これについては、保護者の方にこのペーパーを配っております。5ページ目は円滑な民営化を進めるた

めに令和3年度中、合同保育ということで社会福祉法人無量会善防こども園さんの職員さんが北条東こども園で保育をするという合同保育を実施をしております。9月30日までの実績としましては、4名の保育士の方が入っていただいております、今後10月から3月までにかけましては全部で園長予定者も含めて9名、それから調理員の方も1名ということで、1月以降はフルといいますか、全ての日入ってもらおうというふうな計画になっております。2月の予定が若干ちょっと変更になりますが、一応当初無量会さんのほうから報告を受けた資料を添付をしております。一応来年の4月に向けて12月の市議会でも条例の改正案を提案をいたしまして、北条東こども園の民営化に向けての法手続といいますか、事務的な手続も進めていっているところでございます。今のところ順調に進んでいるということで、本日委員のA委員が理事長であられますけれども、人材の確保につきましてもいろんなご努力をされてはいると思いますが、一応今のところは保育教諭の確保もそれ以外の事務方の確保も全て整ったということでお聞きをしているところであります。以上です。

○会長 丁寧に準備進めていただいているということで分かりました。何かここで確認等々ありますでしょうか。よろしいでしょうか。失敗が許されませんので、ぜひよろしくお願ひします。ちょっと急いで申し訳ありません。もう1件4点目ですが、未来型児童館の検討状況についてどうでしょうか。何か。

○事務局 時間も昼になってしまいましたので、所用の方もございますので、未来型児童館については説明だけさせていただいて、簡単に説明させていただいて、また次回。

○会長 じゃ継続課題ということで扱うことで説明だけ頂戴しましょう。

○事務局 ちょっと簡単に次回の。まだ進捗特にはないので。じゃ引き続いて資料の6ページからであります。ちょっと未来型児童館の検討状況ということで、ここでWG検討状況報告と書いておまして、WGって何のことっていうちょっと説明が不足しております。ワーキンググループということで、市役所の庁内の関係部署から参加をさせていただきまして、検討会ということをしております。ワーキンググループの参加をしている所属であります。人口増政策課、文化観光・スポーツ課、ふるさと創造課、財政課、健康課、地域福祉課、来てみて住んで課、都市計画課、生涯学習課であります。想定をされる要は組織といいますか、その関係課の者が一応全部入ってもらって検討しているということでございます。それで、6ページ目のところに前回令和2年度の第2回子ども・子育て会議ということで、2月18日に一応素案ということで、これでいこうという案をご説明をさせていただきました。

そのときに規模が余りにもちょっとこじんまりし過ぎとって、未来型児童館というのはもうちょっといろんな施設を入れたほうがいいのかというような、ここに記入しているようなご意見をいただきまして、提案した案での承認は得られなかったということでございます。継続審議ということになりました。それを受けまして4月23日以降ワーキンググループで持ちまして、検討をいたしました。本日この状況をお示しておるんでありますが、本日委員の皆様にお尋ねしたかったのは、もし造るとすれば設置場所はどの場所がいいと思われるか、特に市民保護者代表の皆さん方にお聞きしたいんでありますけれども、どこの場所に設置をしたらいいのか、1つ、2つ目は施設の規模はどれぐらいの規模やったらいいのか、3つ目は要は今回コロナの関係等ありましたけれども、今から子ども・子育ての環境が大きく変わっていきます。価値観といいますか、子供さんの数も減りますし、今言いましたように小規模保育園等の整備をしていこうとしております。

その中でこの未来型児童館というものを位置づけといいますか、最後に5年前に取っていたアンケートがあるんでありますけれども、本当に5年前の考え方と同じなのか、今ニーズはもう全然違う

ものなのかということを知りたいということでアンケートを一番最後、12ページから14ページの間でアンケートのちょっと案をつけております。今日お聞きしたかったのは設置場所、それから規模、最後アンケートの設問内容、この3つについて皆様方からのご意見をいただきたいというふうに考えておりました。今日はちょっと時間的なこともありまして、実際、事務局的には進めておるんですが、まだ最終的な決裁といいますか、どういうものをどこに造るか、案は持っておりますが最終的なことはまだ決めておりません。当然子ども・子育て会議の皆さんにもご説明して、そこでの了解をもらった上で進めていきたい。要は今年度進められたらやろうとしたんでありますけども、なかなかちょっと。今年度、来年度とかけて一番基礎となるベースの部分をカチッとしたものを造って、その上で整備のほうも進めていきたいということで、今までも説明しましたけれども、基本の部分がカッチリしたやつがないと進めていっても途中でぶれてしまうので、基本のところはきちっと時間をかけて検討して、それで進めたいというところでございます。

ここのアンケートのところは11月10日までに回答お願いしますということで書いておりました、これは実は次回の2月17日に子ども・子育て会議を予定しております、その子ども・子育て会議にその回答も含めてアンケート結果を報告したいがために、この期日設定ということで予定をしておりましたが、ちょっと本日見てもらえてませんが、これでいっていいという一。この場で今日ご説明して意見をもらうようにしておりましたが、ちょっと時間的にありませんので、できましたらこの資料を2ページのところに加西市こども未来課のメールアドレスの一番下の四角のところに書いております。こども未来課のメールアドレスのところにアンケートについての修正意見というか、こういう設問を加えてほしいとか、この設問は要らんというというご意見があれば、今日は10月18日ですので。10月29日金曜日であります、10月29日までにこのアンケートの設問等につきましてのご意見があれば、提出をお願いしたいと思います。

- 教育長 つまり、これアンケートに答えろということではなくてこのアンケートのやり方でよろしいですかということですか。
- 事務局 そうです。
- 事務局 設問です。設問がこれでいいですかということを知りたい。事務局の案というのはこれで聞きたいということなんですけども。
- 教育長 ちょっと今、部長そっち行ってもらったんですけど、大事な案件なんですよね、すごく。今日すごく大事な案件いっぱいあるわけです。次、これちょっとだけこれだけ見て答えてくださいっていうのは、ちょっと乱暴な気が私はとてもしてるのね。だから、未来課忙しいのにえらいことやと思ってるかもしれないけど、もしも皆さんの中でも、もう1回2月って、年に2回しかない、1回目今日でしょう。そんなん遅すぎるよねみたいな感じやね。だから、それで次2月っていうのはちょっと乱暴ですよ。思いませんか。でも皆さん忙しいとは思うんだけど、調整も大変だとは思うんだけど、ちょっとね。
- 事務局 もう1回しますか。
- 教育長 私はそう思う。ちょっと・・・。
- 事務局 まだ何も決まってないんですよね。
- K委員 でも、何か建つのはありきな感じがして、これを見てたらもう絶対建てるんやなっていう感じがして、正直そこまでいっちゃうのかな。だから、もっと詰めてほしいです。
- 事務局 建てる必要がないということですか。
- K委員 という意見もあります。だから、そういう人の意見をもっと聞いてほしいし、すぐ2月までにこれを出させてって、私ら子育てしてるし。

○事務局　まだ今年決定するつもりはないんですけど、また来年の話やと思うんですけど、今進捗はしてますけど、早急に結論を出すつもりは毛頭ないです。来年にわたって結論を出していこうというふうには考えてます。

○事務局　今、コロナの関係もありますし、それこそ今、市も教育委員会全体で進めようとしている加西STEAM教育ということもありました。それとの絡みで未来型児童館の箱物になりますけれども、拠点ということで整備をしたらどうかというところで、まだ具体的には何も決まっておられません。建てる、どこかに造るということをして前提にして協議はしてますけども。

○会長　教育長、それからK委員からもありましたけど、これ2月に結論を出すということではないですね。

○事務局　ではないです。まだソフトの中身何も決まってないので、中身のほうが大事だと思ってます。

○K委員　もっといっぱい会いたいです。私、今回もめっちゃ私も教育長が言われたとおりに何で10月かっていう、もっといっぱい会ってもいいと思うし、そんな大事なことを決めるんやったら月1でも全然いいと思うんですけど、もちろん忙しいというのもあると思うんですけど。

○事務局　そんな理由じゃないんですけど。

○K委員　月1回あってもそれでも十分なんかなってというぐらいの話やと思うんです、これが。

○事務局　児童館についてはまた別途検討会を開かないとだめなんでしょうけど、ここではご意見を聞く場ですので、実際検討する場ではないです。

○I委員　ワーキンググループ私もちょっと分からなくて、事務局にお伺いに行ったんですけども、この組織自体が市の方だけで決めて枠組みが結構決まっているような状態で、でもまだ決まってませんって一。

○事務局　担当者の意見を聞いているだけです、今後一。

○I委員　それって時間が私ほもったいないと思うんですよ。そこで決めて決まってないのが、こんなに10回も会議をされてて、やっぱり決まてませんって。でも、主旨がまず決まってないのにその人たちで話し合っ、何か話し合いができるのかなってというのがすごく疑問に思っ、まずどんな組織なんですかっていうことをお尋ねに行ったら、市の方だけで決まってる。それで、何のために、その中に市民の意見っていうのが一番やっぱり大事やと思うんです。私たちが年に2回呼ばれて意見を言っ、前の2月のときも箱物ではなく、私たちは中身を充実させたらどうですかって話で終わったはずなんですけど、じゃ中身はって言ったら、皆さんが検討された中ですごく充実した中身がありますけど、じゃ目的がすごく私にしたらぶれてると思うんですよ。

何のための児童館、よその人からもし市外の人が集まるような児童館にしたいのか、加西にいる人たちを大事にしたい、その人たちを何とかしてあげたいと思う児童館ならば、全然主旨が違ってくると思うんですね。そこを集約させるっていうのは、すごくそれって何かやっぱり療育が必要ってこう書いてる中で、療育が必要な人がたくさんの方が集まる場に連れてきたいかっていうのは、やっぱりどこか後ろめたさとかいうか、私も発達障害の子供を持って療育行くっていったら、やっぱり山の中のそういう施設にこそっといくような形で療育に行ってるいうたら、そういう後ろめたい言い方をされたり、そういう中でやっぱりみんな隠して療育に行く人もいらっしゃる。

じゃ、そういう皆がわって集まる場所にそんな療育施設がいいのかって、そこも考えた上でそういうふうにするって話を進めていかれてるのか、その辺で全く主旨が違うのに10回こうってされて、まだ決まってないのは私にしたらすごく時間ももったいないし、その中にアンケートやったら、も

っとバンと出してもいいと思うんですよ。

どういう市民がどんな思いを持っておられるかというのを、そしてそのアンケートの中からどういったものがやっぱり現実の擦り合わせもあるし、箱物建てるっていったらすごくお金がかかるし、そこの維持費はどうなるのか、維持費っていうか、もう運営のところ後ろを見てても何かボランティアの人も入ってもらいますよっていうのもありましたけど、何かこういうふうに活用、施設を運用するとこの先まで考えないと、結局造ってもこんな言い方したら悪いですが、加西市はやっぱり何かいうたら取り掛かりはいいし、すごく取組が私は素晴らしいと思うけど、じゃその始めたことって継続してるかっていったら何か、え、あれ、どうなってるの、みたいなことが多いよねっていうのが私たち住んでてもいつも思うので、それはもう継続してできる方法っていうのをワーキンググループの中で検討できるのであれば、10回、20回と会議を積んでいっていただいたらと思うんですけど、まず主旨がないのに話し合うのはどうかなってすごく思いました。

○会長 いずれにしても、今日はちょっともうご意見をいただくという事務局の提案でありましたけども、これも継続課題のように思いますけれども、もう一度再確認、基本的なグランドデザインを再確認して、共通理解し、具体的な検討をしていくほうが空回りしなくて済むかなと。最終的にはこれを造る造らない結論があるかもしれませんが、やっぱりこの形と中身、それからまさにこれが加西市のこれからの資産になっていくと思いますよね。加西市のやっぱり哲学みたいになっていってると思いますので、その辺が会議の回数はちょっとなかなかしょっちゅうというわけにいかないかもしれないですが、ちょっとステップアップしていくという方向で会議を二、三挟んでいただいて、我々の共通理解を具体化していきたいというふうに思いますけど。どうでしょうかね。技術的には遅いわけではない、まだ先のことっておっしゃってましたので。

○事務局 児童館はもう1年じっくりやらんとおっしゃる中身を決めないと、これは建物だけではだめやと思います。

○会長 もう一度これについては仕切り直しはしませんけど、継続的な1つの課題ですので、もう一度新しくメンバーも来られていますので、共通理解をきちっと図って議論したほうが噛み合うのかなというふうに思います。

○事務局 改めて来年に向けた提案を次回。

○会長 これはこれで庁内でワーキンググループである程度読取りながらこういうことを議論されているんだなと思いますので、このアンケートをそういう今日説明いただいたある程度のイメージが分かりますけども、それを受けてこのアンケートはふさわしいのか、どうなのかという辺りもちょっとあるとすれば意見は意見として、とりあえず寄せ合っていくっていうのでいいかと思いますけれども。

○事務局 すみません、ちょっと確認なんですけど、今この未来型児童館自体を設置するかしないかというところまでの、そこからのスタートということ。K委員さんじゃなかったかもしれないですけど、造ることを前提でということではないですよということなんですけども、造らないという選択肢もありますけれども、今のところは造るとしたらどこかというところを検討しようとしてるんですけども、言い換えれば造るということを前提にして話してるかもしれませんけども。

○教育長 いやいや、ちょっと待ってください。未来型児童館は造りますという市長も表明してるわけですから、そんなとこで今迷ってなくて、むしろ造るんだったらどうするかという議論ができてないでしょとオープンに。どんなにワーキンググループでやっても、ほとんど誰も知らない状況で次こんなもん、また2月でやるんですかって皆さんおっしゃってるんだと私は思いますよ。だから、もうちょっとこども未来課オープンに会議もっとやったらいいじゃな

いですか。だめなんですか。

○事務局 会議を進めるためにベースとなるフレームを作りー。

○教育長 造ってしまったら、変えられないでしょう。

○事務局 それを提案する、変えられないんだけど、一応それを提案するやつ案を作りたいといふところなんですよね。I委員も言われましたけども、療育の関係、いろんな意見、教育の担当も当然入って来てもらってます。市の健康課とかですね。そこでそういう意見もありますけれども、その中でこの未来型児童館の中にやっぱり入れるべきやという意見があつて、そういう人と一緒になつてもする施設が必要なんですよという、そういう意見がありました。だから、ちょっと意見が違うかもしれませんが、当然聞いております。それはいいんですが、あとは不登校適応教室ですね。その意見もありまして、その子たちはどうしますかといったときは、ちょっとそこはその子たちはちょっと無理かなというようなことがあつて、当然担当課というか、来てもらつて意見を聞いて、でももし造るのであれば、そういう方たちもそれに相談しに来れるような、そういう場所があつたらいいねという、そういうことを聞いてます。

○会長 ちょっと会長としてE委員も参画しましたかね。県のこどもの館。

○E委員 一時委員はしていました。

○会長 僕は創設のときに関わつてきて当時、N知事でありますけれども、兵庫県は兵庫県として非常に独自の戦略できてたんですけど、最初に建物があるのではなくて、ちょっとあそこ失敗したところがあると思うんですけど、安藤さんが取つたんでね。最初に建物よりもどういう広報的、多機能的機能を果たしていくかというところの議論があれば、場所をどこにとか、どういふブースを作つてとこつてという話にはなるかと思うんですよね。今このメンバーでちょっとその辺のデザイン、形のデザインじゃなくつて役割機能のデザインがちょっと出来ていないので、その辺ウォーミングアップ会議みたいなものがちょっと必要なかなとは思ひますね。

こういう大規模予算を投入されるわけですから、税金からなわけですけど、やはりそういったところの議論ちょっと足踏みしながらやつて、そして一気に形を作つていくというふうに持つていくのが、転げなくて済むのかなとは思ひますね。こどもの館の場合も熱き議論がありましたけど、いきなり安藤忠雄さんのぼぼんと建物を造つちゃつて、後からそこをどういふふうにするかを考えたらしいみたいな議論になつたんですけど、でもあそこはあそこで非常に機能を発揮してきてる、全国にも発信したところではあるんですけど、せつかく未来型児童館、非常にネーミングがすばらしいと思ひますので、どういふふうな役割機能、ここをもうちょっと語りたいですね。

○事務局 一応、県立で星の子館、科学館の三田も神戸も行って、大体I委員さんが・・・。

○会長 行っていただきました。

○事務局 I委員が言うてたことを大いに感じて帰つてきております。バブルのときの建物やつたりするので、今はそういう時代じゃないということもあつて進めたいと思つております。

○会長 ということで、今日こつたイメージ提案していただきましたので、ちょっと後で詰めの会議を進めるということでご了解いただいて、今日の説明は受けたということにしましょうか。

○事務局 今の状況説明をさせていただいたということ、これについては結果、判断をいただくんではなくて、状況の説明をさせていただいたということにさせていただきます。ということでちょっとこれについておりますアンケートもこれでメールでどうのこうのじゃなくて、



ちょっと保留。このアンケートも含めて今回ちょっと余りにも急いでやっても意味がありませんので、これについてもちょっと次回以降の会議等で検討していただくというふうにさせていただきます。今日はこの説明だけという・・・。

- 会長　会長として議事の進行をちょっと時間の配分が十分でなかったというところをお詫び申し上げます。最後の4つ目については、継続っていう形になりまして、本当に申し訳なく思っております。次回いつあるか分かりませんが、精力的にご意見を頂戴して、この上ないやっぱりデザイン、実行していきたいというふうに思っておりますので、よろしくどうぞ今後とも引き続きお願いいたします。

## 5. 閉会